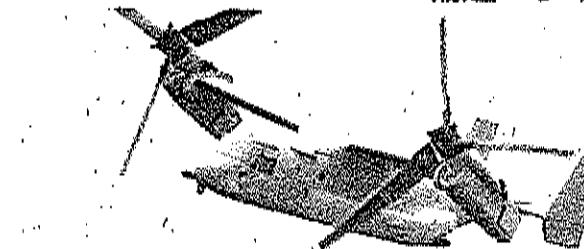


陸自「南西シフト」影響必至 佐賀へ移駐計画

今回の事故は、陸上自衛隊木更津駐屯地（千葉県）に暫定配備中の陸自オスプレイの佐賀県への移駐計画が進むさなかに起きた。今年6月、佐賀空港の隣接地で駐屯地建設が開始。11月28日には県内に初めて陸自機が飛来し、30日には飛行訓練も予定されていた。防衛省関係者は「タイミングが悪い」と漏らす。事故を受けて陸自は当面、保有するオスプレイの飛行を見合わせた。佐賀県内で予定していた訓練も中止となった。

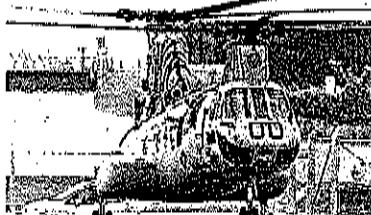
2020年7月に暫定配備が始まった木更津駐屯地には現在、14機のオスプレイが駐機する。防衛省は、25年7月までに佐賀県内に移駐し、17機態勢にする計画だ。木更津市は30日、原因究明と安全確保されるまでの間、飛行を見合わせるよう防衛省と口頭で要請した。渡辺芳邦市長は「市民の安全性に対する不安を払拭するため」と説明した。

陸自トップの森下泰田陸上幕僚長は30日の会見で、「地元の懸念の声についても真摯に受け止めつつ、引き続き、我々としては（新しい駐屯地の）整備に取り組む」と述べた。ただ、陸自は防衛力の「南西シフト」を進める上で、オスプレイを前線への部隊輸送に欠かせない「ピース」と位置づけてきた。自衛隊関係者は「事故原因がわからず、何とも言えないが、南西シフトへの影響は避けられないだろ」と語る。（成沢解説、堤泰太）



MV-22

最大速力(時速)	約520km
航続距離	約3900km
輸送兵員数	24人
貨物(内部)	約9100kg
全長	17.5m
重さ	約16t



CH-46

最大速力(時速)	約270km
航続距離	約700km
輸送兵員数	12人
貨物(内部)	約2300kg
全長	25.7m
重さ	約7.7t

いちから

わかる。オスプレイどんな機体？

垂直離着陸できて、ヘリより速く航続距離も長い

Q 墜落事故が起きたオス

プレイとは？

A 両翼の先端についてい

るプロペラ部分の向きが変え

られる輸送機だ。上に向けて

ヘリのように垂直に離着陸し

たり、前と傾けて固定翼機の

ように高速で飛んだりでき

る。名前は、急降下して魚を

捕る鳥の「ミサゴ」の英語名

から取っている。米軍が19

80年代に開発を始め、20

07年に実戦配備した。

今回墜落したのは米空軍が

運用するCV-22だが、このほ

か米海兵隊がMV-22、陸上自

衛隊がV-22を運用している。

エンジンやシステムは基本的

に同じものだが、民間人救助

や対テロの特殊作戦にかかわ

る部隊が乗りこむCV-22に

は、夜間飛行にも対応した機能が備わっており、高性能と

されている。

Q これまでの輸送機との

性能上の違いは？

A 陸自のオスプレイでみ

ると、最高速度約500km/h、

航続距離は約2600kmで、

これまでの輸送ヘリに比べて

速度は約2倍、航続距離は約

3倍に伸びた。部隊や物資を

最前線に運ぶ効率で言えば、

軍事的利点は大きい。

Q 一方で、深刻な事故が

相次いでいる。

A 10万飛行時間あたりの

重大事故の発生率は、CV-22

が6.00%（21年9月末時

点）。MV-22は2.27%（22

年9月末時点）で、海兵隊全

体の事故率は2.59%（同）

だから、MV-22は平均をやや下

回っている。ただ、事故は、

整備不良や操縦ミスなど複合

的な原因が多く、防衛省内で

も「あくまで自安」といった

受け止めが強い。

A オスプレイの事故率が

極端に高いわけではないが、

開発段階で事故が相次ぎ、一

時中止された経緯もある。

(感涙解説)